

## 2026 年 3 月期 第 2 四半期(中間期) 決算説明会での主な質疑応答

---

日時 2025 年 11 月 11 日 10:30-11:30(日本時間)  
場所 オンライン  
登壇者 専務執行役員(上席) 西 美純  
常務執行役員(上席) 山崎 宏信

### 主な質疑

---

質問: 上期実績を踏まえた下期の見通しをお聞かせください。

回答: セグメント間で強弱はありますが、全体として通期計画は変更していません。板紙・紙加工関連事業では、青果物の回復遅れや飲料需要の力強さ不足により数量が計画を下回る見込みです。軟包装関連事業では前年からの回復基調にあり、価格改定効果も続いています。海外関連事業では、欧州の回復が遅れています。下期にはトライコー社ゴッホ工場新設の効果が想定されるものの、大きな回復を見込むことは難しい状況です。

---

質問: 価格改定について、現状の進捗と今後の見通しをお聞かせください。

回答: 10 月 1 日での価格改定を打ち出しましたが、交渉の進捗は想定よりやや遅れ気味で、業績への寄与は 2027 年 3 月期以降となることを見込んでいます。1 月 1 日、4 月 1 日といった期日での改定に向け、11 月～12 月にかけて交渉を強化する方針です。

---

質問: 価格改定幅はどの程度になりそうですか？

回答: 原紙については10円/kgの改定を発表しましたが、調整される可能性はあります。段ボール・紙器製品については、原紙代に加工賃を加えた幅での改定を見込んでいます。加工賃については、労務費や物流費の上昇への理解が進んでいることから、確保できるものと考えています。

---

**質問： 中小段ボールメーカーの価格改定に臨む姿勢は前回と比較してどうですか？**

**回答：** 原紙の改定を伴わなかった前回の製品価格改定と異なり、今回は中小段ボールメーカーも原紙価格の値上げを受け入れざるを得ないという共通認識があり、その転嫁に向けて動きつつあります。

---

**質問： 軟包装関連事業の好調な業績の持続性について、見通しをお聞かせください。**

**回答：** 第 3 四半期までは持続する見込みですが、第 4 四半期にはフィルムの価格調整へのプレッシャーは増す可能性があるでしょう。ただし、加工製品については価格維持が可能と見込んでいます。昨年、川上のフィルム事業の強化とグループ全体での一貫化を進めたことで、安定操業が確保されたことにより、川下の製品でも原反フィルムの安定調達が可能となるなどの相乗効果が現れています。これらのことは、最終製品の価格交渉力の強化にもつながっていると考えています。

---

**質問： 海外関連事業の業績について、地域別に教えてください。**

**回答：** 上期のセグメント利益は前年比 39 億円の減益です。地域別では欧州が最も苦戦しており、北米、アジア(グレーターチャイナを除く)も前年を下回る状況です。一方で、グレーターチャイナは前年を上回る利益を上げています。

---

**質問： 新設されたトライコー社ゴッホ工場の収益の見通しをお聞かせください。**

**回答：** 今期は減価償却費が大きな負担となる見込みです。トライオールグループでの連携を強化し、グループ企業への段ボールシート供給を増やすことで改善を図ってまいります。

---

**質問： なぜこのタイミングで増配を決定したのですか？**

**回答：** Vision120 で掲げた 2030 年 3 月期の目標に向けて、着実に配当水準を高めていくことを目指しており、政策保有株式の売却目標に対する見通しが立ったことも踏まえ、決定しました。

---

質問：湘南工場敷地の一部収用に係る補償金受取り(148 億円)の業績への影響について教えてください。

回答：現在精査中です。重要な影響が生じることが判明した際には、速やかにお知らせします。

本文書に含まれる情報の全部又は一部を無断で複製、転載することをご遠慮ください。

本資料に含まれる事業戦略や業績予想等に関する内容については、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。  
記載された業績予想数値等は、将来の計画に関して実現を保証するものではありません。